

登録コード:MH422300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	認知障害治療学 【20M以降】 Occupational Therapy for cognitive impairment: Part 2			
担当教員	上村 智子			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/3年 後期 木曜・2 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 2 1 講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標		
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	認知障害の類型別の治療原則とリハビリテーションの基礎的内容について理解する		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	認知障害のある人の作業療法実践に役立つ障害・治療の枠組みを整理した資料を作成する		
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	認知障害の類型別の治療原則とリハビリテーションの基礎的内容について理解する。認知障害のある人の作業療法実践に役立つ障害・治療の枠組みを整理した資料を作成する。		
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	認知障害のある人の健康問題に対して、作業療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探究心と、対象者の課題に応じた安全で効果的な治療実践に向けて、生涯をかけて取り組む力が身についている。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業では、脳卒中や頭部外傷後に認知障害を発症した人の作業療法について学習します。最初に、認知障害者のリハビリテーションの基本的な治療原則を学び、続いてモデル事例を通して、認知障害のある人のリハビリテーションの実践方法と、実践における作業療法士の役割について学習します。 本授業は、2年次に学んだ「臨床神経学」「高次脳機能障害学」と、3年前期に学んだ「認知障害治療学1」を前提に学ぶことになります。そして、4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における作業療法士としての実践経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画の内容を含んでいます。			
授業計画	第 1回（10月 1日） 主な症候のリハビリテーションの基本（注意障害） 第 2回（10月 8日） " （無視症候群） 第 3回（10月15日） " （失認） 第 4回（10月22日） " （失語） 第 5回（10月29日） " （失行） 第 6回（11月 5日） " （記憶障害）ノートの点検 第 7回（11月12日） " （遂行機能障害） 第 8回（11月19日） " （情動と意欲の障害への対応） 第 9回（12月 3日） " （病識低下への対応） 第10回（12月10日） 事例から学ぶ（重度の注意・記憶・遂行機能障害の人への復職支援） 第11回（12月17日） " （視覚性失認のある人への認知リハ） 第12回（12月24日） " （観念失行と失語症のある人へのリハ） 第13回（ 1月 7日） " （着衣・展望記憶の障害のある人へのリハ） 第14回（ 1月14日） 認知障害と生活支援 第15回（ 1月21日） まとめ ノートの点検 授業アンケートの実施 第16回（ 1月28日） 期末試験			
授業の進め方	授業は教科書に基づいて進めていきますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開します。また演習では、認知障害の作業療法に関連する既習の内容を含めて知識を体系的に整理する課題を実施し、その成果を確認します。			
テキスト、教材、参考書	武田克彦ほか編著：高次脳機能障害のリハビリテーション（第3版）。医歯薬出版。2018 参考書については授業で紹介します。			
成績評価の方法	筆記試験と演習課題の成果に基づいて、総括的に成績を評価します。総括評価の配分は、筆記試験50％、認知障害の作業療法に関連するノート整理の演習50％とし、総計の60％以上を合格とします。また、ノート整理は資料不足なし50％、自修学習30％、資料整理20％の配分とし、上記の通り中間評価と最終評価を実施します。 期末試験では、認知障害の類型別の治療原則と、リハビリテーション実践の基礎的事項、作業療法士の役割についての理解を確認します。			
成績評価の基準	筆記試験と演習課題の成果による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀，80 - 89点：優，70-79点：良，60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論			

成績評価の基準	理的な妥当性を指標とし，授業で説明した範囲における，最低限の解答内容であれば「水準にある（可）」，やや詳細な解答内容であれば「やや上にある（良）」，十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある（優）」，授業で説明した範囲以上で自身で能動的に学習した詳細な解答内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回，授業の終わりに，次回までに学習すべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 授業の始めに，前回の授業で復習した内容や能動学習で学んだ内容についての質問を受けます。ノートの整理では，高次脳機能障害学，認知障害治療学Ⅰなど，既習の学習内容も含めて，体系的に整理し，能動学習で学習した内容も含めてください。 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため，以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋事前・事後の自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して，事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	本科目は「高次脳機能障害学」「認知障害治療学Ⅰ」の学習内容を基盤に構成されています。履修前に，再確認しておいてください。 質問への対応：上村智子 tkamimu@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日12時～13時 保健学科中校舎4階 上村研究室